

# 高齢者に発生した精巣胚細胞腫瘍の1例

早川 将平 佐藤 元 柳岡 正範  
 笠原 正男<sup>1)</sup> 置塩 則彦<sup>2)</sup>

静岡赤十字病院 泌尿器科

1) 同 病 理 科

2) 置塩泌尿器科クリニック

**要旨：**症例は78歳の男性。平成21年2月初旬より右陰嚢の無痛性腫大を自覚し、近医泌尿器科を受診。平成21年2月17日右精巣腫瘍疑いで当科へ紹介受診。初診時検査所見においてAFP 205 ng/ml, HCG- $\beta$ 0.9 ng/mlと腫瘍マーカーの上昇を認めた。右精巣は左と比べて軽度腫大、全体に硬。画像検査で明らかな異常は認めなかった。右精巣腫瘍の診断にて平成21年2月24日高位除精巣術を施行。

病理組織診断はセミノーマ、胎児性癌、奇形腫を含む複合組織型の精巣胚細胞腫であった。術後、腫瘍マーカーは正常化し、現在も外来にて経過観察中である。

**Key word：**精巣腫瘍、精巣胚細胞腫瘍、高齢者

## I. はじめに

60歳以上の高齢者において精巣腫瘍は頻度が低く中でも胚細胞腫は極めて稀である。今回我々は78歳と高齢者に発生した精巣胚細胞腫を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

## I. 症 例

患者：78歳、男性。

主訴：無痛性右陰嚢腫大。

既往歴：特記事項なし。

現病歴：平成21年2月初旬より右陰嚢の無痛性腫大を自覚し、近医泌尿器科を受診。平成21年2月17日右精巣腫瘍疑いにて当科へ紹介。

初診時現症：腹部は平坦。右精巣は左と比べて軽度腫大。表面平滑で全体に硬。表在性リンパ節は触知せず。

初診時検査所見：血液検査においてLDH 185 IU/l, BUN 10.6 mg/dl, Cr 0.76 mg/dl, CRP < 0.3 mg/dl, AFP 205 ng/ml, HCG- $\beta$ 0.9 ng/ml, IL-2レセプター 441 U/mlと精巣胚細胞腫の腫瘍マーカーの上昇がみられた。

胸部レントゲン、腹部CT、骨シンチでは明らかな

異常は認めなかった。

超音波検査で右精巣は内部均一で精巣径は28×40 mmだった。

臨床経過：右精巣腫瘍と診断し平成21年2月24日高位除精巣術を施行した。

摘出標本肉眼的所見：摘出した精巣は3×3×2 cm大で、断面は白色の充実部、出血部、嚢胞状部分と多彩な所見が混在していた。肉眼的には外膜浸潤は認めなかった。(図1)

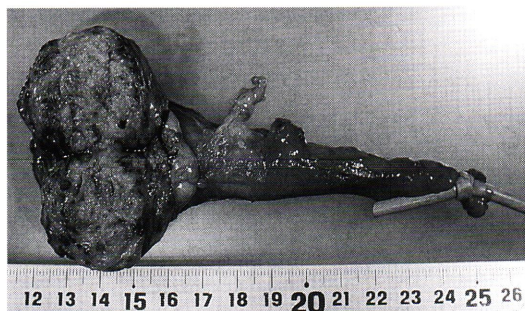


図1 摘出標本

病理組織所見：セミノーマ、胎児性癌、成熟奇形腫および未熟奇形腫からなる複合組織型の精巣胚細胞腫瘍。(図2,3,4,5)

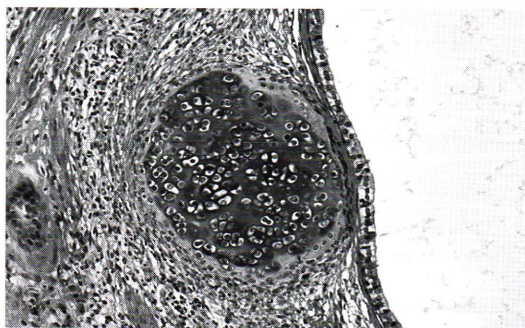


図2 成熟奇形腫 (HE, ×40)  
中央に成熟軟骨を認める

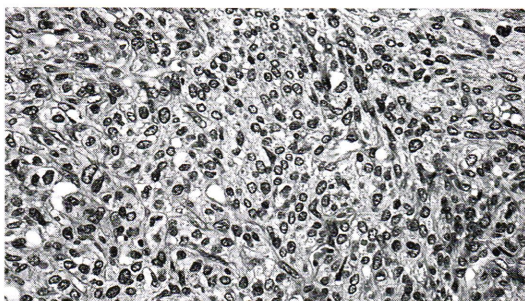


図3 未熟奇形腫 (HE, ×40)  
未分化な間葉系細胞が敷石状に増殖

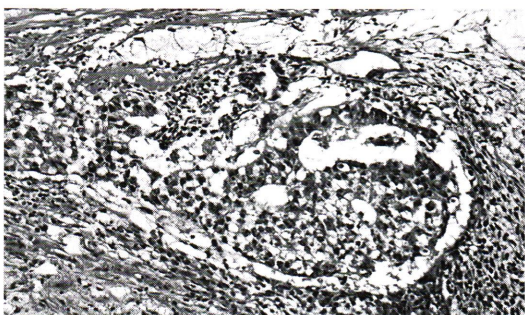


図4 胎児性癌 (HE, ×20)  
未分化な異型上皮細胞が管状構造を呈す

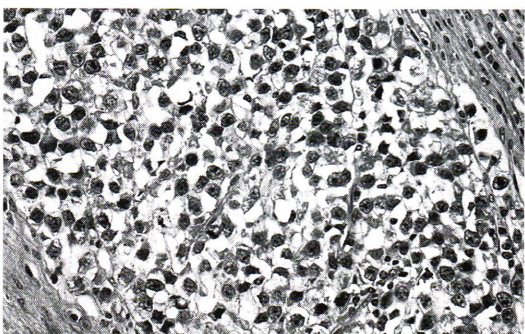


図5 セミノーマ (HE, ×40)  
淡明な細胞質を有する細胞が敷石状に増殖

術後経過：術後、腫瘍マーカーは半減期に沿って HCG $\beta$  は約3週間で、AFP は約2カ月で正常化。病期 pT1N0M0 と診断した。術後8カ月経過した現在も再発、転移は認めてない。

## II. 考 察

精巣腫瘍の90～95%は胚細胞を起源とする胚細胞腫瘍で残りは精索/間質腫瘍あるいはリンパ組織および造血組織由来の腫瘍である。その発生は特徴ある3峰性を示し、0～4歳と45～59歳に小さなピークがあり25～34歳に大きなピークがある<sup>1)</sup>。胚細胞腫瘍の組織型はセミノーマが40-50%、複合組織型が30-40%を占める。吉田らによると精巣腫瘍全体の中で60歳以上の発生頻度は1.2%で70歳以上では0.4%と報告されている<sup>2)</sup>。また Abell らによると60歳以上の精巣腫瘍において悪性リンパ腫の頻度が44%と最も多く、胚細胞腫瘍は24%と少ない<sup>3)</sup>。

今回、我々は本邦の1980年以降の65歳以上の精巣胚細胞腫瘍について本症例を含め29例について検討したところ、組織型はセミノーマが21例で72.4%を占め、非セミノーマは8例で27.6%と一般的な頻度と比べセミノーマの頻度が特に高かった。

また、非セミノーマの中で複合組織型は本症例を含め29例中4例のみで高齢者においては稀であった。他は胎児性癌2例、奇形腫1例、ライディッヒ細胞腫瘍1例であった。

胚細胞腫瘍の組織発生において、Srigley らは四面体モデルにおいてセミノーマから非セミノーマ性胚細胞腫瘍が胎児性癌を介してかまたは直接発生するという説を述べている<sup>4)</sup>。一般的に複合組織型の頻度は精巣胚細胞腫瘍の中で30～40%といわれており、このことが精巣胚細胞腫瘍の組織型には複合組織型が多い理由として考えられている。しかし、高齢者においては複合組織型の頻度は13.8%と明らかに低かった。

また、精巣腫瘍のリスクファクターとして①停留精巣、②胚細胞腫瘍の既往のある対側発生、③遺伝性、④不妊症などが知られている。65歳以上の精巣胚細胞腫瘍において29例のうち停留精巣に合併した症例は4例で13.8%と一般的な頻度よりも多く認めた。

本邦の最高齢は94歳で組織型は精母細胞性セミノーマであった<sup>5)</sup>。

### Ⅲ. 結 語

今回、我々は高齢者に発生した精巣胚細胞腫の一例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告した。高齢者でも稀だが精巣腫瘍を認めることがあり、高齢者の陰嚢腫大を見た時は悪性腫瘍も念頭に置く必要があると考えた。

### 文 献

- 1) 吉田修ほか：精巣腫瘍. 日本臨床 本邦臨床統計集 1993；51：343-349.
- 2) 吉田修ほか：1970年代の日本人精巣腫瘍の臨

床検討.泌尿器科紀要 1985;31：337-354.

- 3) Abell MR, et al: Testicular and paratesticular neoplasms in patients 60 years of age and older. Cancer 1968;32:852-870.
- 4) Srigley, J.R, et al: The ultrastructure and histogenesis of male germ neoplasia with emphasis on seminoma with early carcinomatous feature. Ultrastruc Pathol 1998；12:67-86.
- 5) 石井初江ほか：94歳男性に認めた精母細胞性セミノーマ, 臨床泌尿器科 1999；53(2)：155-157.

# A case of malignant testicular germ cell tumor in an elderly man

Syohei Hayakawa, Hajime Sato, Masanori Yanaoka,  
Masao Kasahara<sup>1)</sup>, Norihiko Okishio<sup>2)</sup>

Department of urology, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

1) Department of Pathology, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

2) Okishio Urology Clinic

**Abstract :** An 78 year-old male noticed a painless swelling of his right scrotum from the beginning on February, 2009. He was examined in nearly urology clinic. He was introduced testicular tumor to our department. Tumor marker was increased to AFP 205 ng/ml, HCG- $\beta$ 0.9 ng/ml. His right testis was a little large compared with his left, and it was hard in the whole. There was no obvious abnormality in the imaging test. We performed the right high inguinal orchiectomy on February 24, 2009 by diagnosing a right testicular tumor. Histological examination of the resected testis revealed germ cell tumor, tumors of more than one histological type, seminoma, embryonal carcinoma and teratoma. Thereafter, tumor marker return to normalization. The patient was put under follow-up observation in the present.

**Key word :** orchioncus, testicular germ cell tumor, elderly man



---

連絡先：早川将平；静岡赤十字病院 泌尿器科

〒420-0853 静岡市葵区追手町 8-2 TEL (054) 254-4311